

「訪問介護職員のためのそうだったのか！感染対策」シナリオ

シナリオ1 あなたが利用者宅にウイルスをもちこまない

*山田先生の冒頭の挨拶はテロップが全て挿入されているのでカットします！

ナレーション	・お宅に到着して、玄関に入ってから利用者のそばに行くまでに、どのような点に注意が必要かをみていきましょう。 ・訪問介護職員の鈴木さんは、サービスを利用しているヒロコさん（女性）のお宅を訪問するところです。ヒロコさんは認知症があり要介護5の状況です。
鈴木	こんにちは。介護サービスの鈴木です。
孫	どうぞ、お入りください。
鈴木	こんにちは鈴木です！
鈴木	こんにちは鈴木です、今日もよろしくお願いします。
孫	こんにちはよろしくお願いします。
孫	よろしくお願いします。
鈴木	それでは失礼しますね。
ナレーション	・上着やケアに使わないものは、居室に持ち込まず、玄関に置きましょう。ウイルスはあなたの体や持ち物のどこについていてもおかしくありませんが、利用者の体につけないために、特に注意をはらうのはどこだと思いますか？ ・特に多くの人がかかる場所は、ウイルスが付着している可能性が高いです。マンションの場合は、インターホンやエレベーターのボタンなどはそれに該当しますので気をつけましょう。

鈴木	あっ、すみません。ヒロコさんにお会いする前に、手を洗ってもいいですか？
孫	はい。どうぞ。石鹸とタオルがあるので使ってください。
鈴木	ありがとうございます、自分でタオル持ってきたので大丈夫です。
ナレーション	<p>・タオルは利用者ごとに1枚用意しましょう。ペーパータオルを持参するのも良い方法です。</p> <p>・マスクは正しくつけましょう。鼻が出ていたり、口が出ていたりするとウイルスに触ったり、ウイルスを飛ばすことに繋がります。</p> <p>・手を洗う時は、爪、親指、指の間、手首を石けんでしっかり60秒間もみ洗いして、15秒流水で流しましょう。液状石けんを小分けにして持参するのも良いでしょう。チューブに入った洗顔石けんでも代用できます。</p> <p>固形石鹸の場合は、表面にウイルスがついているかもしれないので、表面を十分に洗い流してから、しっかり泡立てて洗きましょう。</p> <p>・最後に水を止める時には蛇口に触れないように気をつけます。蛇口に触れる場合は、蛇口も一緒に洗ってからとめましょう。</p> <p>・使い捨てのエプロンがなく布製のエプロンだけでケアする場合は一訪問毎に交換しましょう。</p> <p>・手を洗った後、マスクや自分の顔、髪の毛をさわらないようにしましょう。</p>
鈴木	ひろこさん、こんにちは鈴木です。今日もよろしくお願ひしますね。マスクをつけたままで失礼します。今日もよろしくお願ひします。
ナレーション	マスクをしたままの挨拶は失礼だと考える方もいらっしゃるかもしれませんが、感染対策を優先しマスクをつけたまま挨拶をいたしましょう。

鈴木	お部屋に外の空気を入れましょうか。
ナレーシ ョン	<ul style="list-style-type: none">・部屋の空気を入れ替えは大切です。1～2時間ごとに10分から15分を目安に窓を開けるなど換気に心掛けます。・ケアをする前には、流水で手を洗うか、手指消毒剤できれいにします。手指消毒剤は、手のひらに擦り込むだけでなく、十分な量を使って、手洗いと同じようにして、爪、親指、指の間、手首を忘れずにしっかり擦り込みましょう。
鈴木	今日はお熱、測りましたか？
孫	まだ測ってないです。
鈴木	そしたらお熱測った方がいいので、一度測りましょうか？
ナレーシ ョン	体調の変化に早く気づくために、熱は毎日測りましょう。咳、だるさなどにも気を付けてください。
鈴木	ちょっと失礼しますね、ここに体温計をはさみますね。
ナレーシ ョン	<ul style="list-style-type: none">・突然の咳などに備えて、利用者の顔の正面に自分の顔をもっていかないようにしましょう。・自分の鼻や口、目を直接接触することは避けましょう。鼻がかゆくてマスクの上から、自分の顔を触ったときは、マスクについていたウイルスがあなたの手についたと考えます。もう一度、流水と石鹸で手を洗うか、手指消毒剤できれいにしましょう。・利用者宅にウイルスを持ち込まないための方法を見してきました。不要な荷物を持ち込まないこと、手を洗うときに注意すること、マスクや顔を触らないこと、ケアの前と後に手をきれいにすること、換気をすること、顔を向き合わないことなどがありました。ウイルスがついている可能性のある場所をイメージしながら

ら、ウイルスを持ち込まない方法を考えてみてください。

- ・利用者の体調の変化にいち早く気付くことも大切です。

シナリオ2 あなたと利用者がウイルスをやりとりしない

*山田先生の冒頭の挨拶はテロップが全て挿入されているのでカットします！

ナレーシ ヨン ・食事介助などで、ウイルスのやり取りのリスクが高いのはどんな状況でしょうか？手や顔を意識して、動画を観てみてください。
・介護職員は、流水と石鹸で手洗いをし、使い捨てエプロンをつけます。食事中に利用者が咳やむせ込み等で唾液が飛ぶかもしれないため、花粉症対応のメガネやゴーグル、フェイスシールドをつけて、目を守りましょう。手にも唾液がつく可能性があるため、使い捨て手袋をつけましょう。

鈴木 ひろこさん、お食事の前にちょっとテーブルをきれいにしますね。

ナレーシ ヨン 食事をするテーブルのウイルスを取り除くために、アルコール入りウェットティッシュで拭きます。ない場合には、塩素系漂白剤を希釈して使用します。

鈴木 ・ひろこさん、これからお食事しようと思うので先に手を洗いましょうか。
・ちょっと冷たくなりますよ、はい触りますね。
・ごめんなさい、冷たいですね。
・はい、終わりました。
・ひろこさんお食事お待たせしました、ちょっとお食事の準備しましょうか。汚れないように。

ナレーシ ヨン 利用者の手にも手指消毒剤をすりこみます。あるいは洗面器にお湯を入れ、手洗いをし、微温湯でかけ流す方法もあります。
咽せないように頭がうしろにならず、あごを手前に引いた姿勢でいられる様に体位を整えます。ひろこさんいい姿勢ですね。唾液で服を汚さないようにひろこさんに前掛けをつけます。

鈴木 今日、お肉とお魚煮たのですよ。

ひろこ うわあ！！

ナレーション 全介助の場合、利用者の斜め後ろに座り、呑み込みの様子を観察しながら介助します。

利用者への言葉かけや介助の時に話をしたり近づきすぎないように、注意しましょう。

ケアの気持ちからついつい利用者に近づきがちですが離れましょうね。

食事の間は、言葉による会話をできるだけせず、OKサインやうなずき、笑顔などでコミュニケーションを図りましょう

利用者に発熱や咳などの症状がある時

個室で、可能な限り防御策を講じ、食事介助を行います。

ここでは、手作りのフェイスシールドとゴミ袋エプロンを使用しました。

作り方は、本編の最後をご覧ください。

また、発熱等の症状がある場合は、まずは、本人・家族等に医師に相談することを促してください。

家での生活については、厚生労働省ホームページにある「家庭内でご注意いただきたいこと8つのポイント」の内容を本人・家族と共に、確認しあってください。

食事中にむせた時

この状況では前掛けで利用者の口元を覆うのはどうでしょう。

介護職員は、上体を後ろに引いて、唾液を浴びないようにしましょう。

利用者の口の中に残った食べ物を吐き出すように促します。

頭が後ろに倒れない姿勢にして、口をすすぎます。

咳やむせ込み等の可能性がある場合には、ティッシュやタオルなどを手の届くところに準備しておきます。

利用者のむせ込みが落ち着いたら、汚れたティッシュなどをビニール袋に入れておきましょう。

口腔ケアを行う時も、むせないよう注意しながらうがいをして

らいます。

うがいを促しましょう。

口の中に食べものが残っていないか確認し、歯ブラシやスポンジを使って口の中をきれいにしましょう。

顔や口の周りをふき取り、ティッシュ等をビニール袋に入れましょう。

ビニール袋の内側に触れずに口を閉めます。

排泄物も感染対策として慎重に取り扱きましょう。

排泄介助の最初から後始末が終わるまで、手袋に加え、マスクと使い捨てエプロンを着用します。

トイレの水を流すときは蓋をしてから流しましょう。

使用後のポータブルトイレのバケツは洗浄し、次亜塩素酸ナトリウム等で消毒します。

ウイルスのついた可能性のあるものを触ることなく捨てる方法を考えましょう。

手袋の外側に触れないように手袋を外し、ゴミ袋の内側に触れないように入れます。

ゴーグルを外す前に、手指消毒をします。

これは誤って手で目に触れても感染を防ぐために行います。

エプロンを取り外した時には、外側に触れないように注意しましょう。

ビニール袋に捨てる時は上から落とします。

袋の内側に触れないように注意し、中の空気が顔にかからないように静かに抜いてから、袋の口を結びましょう。

食器などは、分けて洗う必要はなく、通常の洗浄でかまいません。

利用者とウイルスをやりとりしないための方法を見てきました。

食事介助時は、利用者の正面に自分の顔をもっていかないこと、介助の際には、話をしたり、近づきすぎたりしないこと、介助中

に顔や髪などに触れないこと、
手袋やエプロンを外す時は、汚れた面を意識することなどがありました。
ウイルスがついている可能性のある場所をイメージしながら、
ウイルスをやりとりしない方法を考えてみてください。

シナリオ3 あなたがウイルスをもちださない

*山田先生の冒頭の挨拶はテロップが全て挿入されているのでカットします！

ナレーション 鈴木さんは記録を書くためにバッグの中からボールペンを取り出そうとしています。

鈴木さんは、何がいけなかったのでしょうか？

あなたのバッグは他の利用者のお宅にも持っていきますね。

それを考えると、バッグの外側は、きれいではありません。

バッグの内側を常にきれいに保っておくためには、どんな工夫をしたら良いのでしょうか？

バッグの中の物を取り出すときは、手を消毒してからにしましょう。

鈴木さん、記録が終わったようですね。今使ったボールペンをバッグにしまう時にはどうしたらよいのでしょうか。

バッグにしまう前には、アルコールが含まれているシートや台所用洗剤を水で薄めたものなどでボールペンを拭いてきれいにしましょう。

バッグの中の清潔に保つためには、バッグを開ける機会を減らすという工夫ができると思います。

例えば、利用者宅で記録用のペンを用意してもらい、それを使うことでバッグを開けなくて済みますよね。

利用者宅の物を使わせていただくときは、どのようなことに注意をしたらよいでしょう。

複数の人が使いますので、一人が汚れた手で触ると、他の人たちの手も汚れてしまいます。

ボールペンを使う前と後に、手を洗うか、手指消毒剤できれいにいたしましょう。

また、効率よくサービスをするためには、記録をまとめて最後にするといった工夫もできますよね。

サービスが終わったばかりの鈴木さんです。

2つ目の動画では、食事介助と排泄介助をしていましたね。

サービスが終えた鈴木さんの、どこにウイルスがついていると思いますか？

エプロンの外側ですね。目に見える汚れがなくても、ウイルスが付着しているかもしれません。エプロンを脱ぐときにもコツがあります。

ここでは、エプロンの脱ぎ方について説明します。

ウイルスを持ち出さないための上手な脱ぎ方を見ていきましょう。

エプロンの外側の面は汚れています。

脱ぐときは、そこが自分の顔や髪・服などに触れないように気をつけながらゆっくりと脱ぎましょう。

上手に脱げたら、エプロンを体から離れたところで持ち、汚れている外側の面が内側になるようにしてたたんでいきます。

布エプロンの上にビニールエプロンをしていたとしても、覆われていない部分にウイルスがついている可能性がありますので、同じようにたたみます。

たたんだエプロンはビニール袋に入れ、口をしっかりと閉じます。

エプロンは、利用者ごとに1枚用意し、使い回しはしないでください。

たたんだエプロンを入れるように、ビニール袋は、ケアを始める前に、あらかじめ開いておくとうまくいきます。

エプロンを脱いだ後は、必ず、手を洗うか、手指を消毒します。

持ち帰ったエプロンを洗濯するときは、どのようにしましょう？

エプロンにはウイルスが付いている可能性がありますので、帰ったらエプロンに直接触れないように注意しながら、速やかに洗濯機に入れましょう。

洗濯は、いつも通りの洗濯で構いません。
一般的な家庭用洗剤で洗ってから、しっかり乾燥させてください。

鈴木 後片付けが終わって、帰る前には手を洗いましょう。
それではお邪魔しました、また伺いますね。

孫 ありがとうございます。

鈴木 すいません、スリッパこのままで失礼します。

孫 どうぞ、どうぞ。

鈴木 お邪魔しました。

ナレーシ ユン 鈴木さんは、ひろこさんとお孫さんへの挨拶が終わってから上着を着ました。

上着を着たまま利用者のお宅に長くいると、その上着にウイルスが付き、それを持ち出してしまうかもしれません。

上着は、玄関を出る直前か、玄関の外に出てから着るようにいたしましょう。

訪問すると喉が渇きますね。

飲み物を飲むためにはマスクを外すところになりますから感染のリスクを高めますね。

利用者宅に入ったら、出るまではマスクは外さない方がいいと思います。

水を飲む場合には、外に出てから飲むのも一案です。

マスクのゴムをもって静かに外し、おもて面や内側に触らない

ようにしましょう。

マスクが肩や胸につかないように、ゴムの部分を持ったまま水を飲みましょう。

あなたがウイルスを持ち出さないための方法を見てきました。ウイルスがついたかもしれないところは触らないこと、ウイルスを私物につけないこと、手をよく洗うこと、利用者宅ではマスクを外さないことなどがありました。

ウイルスがついている可能性がある場所をイメージしながら、ウイルスを持ち出さない方法を考えてみてください。

事業所で、ついつい3密になっていませんか？

食べながらおしゃべりをしていませんか？

事業所でもマスクをつけて、ソーシャルディスタンスを保ちましょう。